HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	顔師古急就篇注音韻考
Author(s)	大島, 正二
Citation	北海道大學文學部紀要, 22(1), 1-72
Issue Date	1974-03-13
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/33384
Type	departmental bulletin paper
File Information	22(1)_PL1-72.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

顔師古急就篇注音韻考

大　島　正　二

顔師古急就篇注音韻考

大島正二

1. 0. 本稿は、音義類[1]を資料として進めつつある唐代音韻史研究の一環として、漢・史游の『急就篇』4巻に付された顔師古（A. D. 581-645[2]）の音注（A. D. 627-644 迄の或る年に成書。以下、『急就篇注』と呼ぶ[3]）に反映する音韻的特徴の一端を明らかにしようとするものである。

顔師古音については、顔師古『漢書音義』（A. D. 641 成書。以下、『漢書』と略称）に関する小論[4]に於て、当該資料の範囲内で明らかとなった特徴的様相を示し、その整理結果に基づき、顔師古音の体系が『切韻』（A. D. 601 成書）の体系より遙かに単純なものであったらしいこと、そしてそこから導き出される推論として、Karlgren や周法高の唱える『切韻』長安方言説の疑わしいことを述べたが、そこでは得られなかった音韻的特徴を示す音注の例も『急就篇注』には見えるので、ここに別稿を用意し、上掲小論の補足を兼ねて報告することにした。

2. 0. 以下、『急就篇注』に見える音注の内、整理の基準とする『切韻』と体系上の「ずれ」を示すと解される例[5]を声類・韻類の別に分類・整理して挙げる。用いる中国音韻学の術語は特に断わらない限り慣用に従う。

2. 1. 声類

声類について、唐代関中音の体系を伝えていると説かれる慧琳『一切経音義』（A. D. 788-810 成書。以下、『慧琳』と略称[6]）の反切からも窺える

特徴を示す例と然らざるものとに大別し、『漢書』と対照させつつ示す。

2. 1. 1. 『慧琳』の反切からも窺える特徴を示す例

（1）脣音の重脣音と軽脣音との分岐を示すと解される例。同様の例は『漢書』にも見える。

『広韻』の体系では重脣音と軽脣音とは未分化であったために、帰字の声母が重脣音である反切の上字として、後に軽脣音化する声母（以下、軽脣音化声母と呼ぶ）が用いられている例が多いが、それ等が『急就篇注』で改められている例が見える。

并〔広〕府盈／卑盈（2.11オ）[7]。鑣〔広〕甫嬌／彼驕（3.35ウ）。卑〔広〕府移／必彌（3.6オ）。邳〔広〕符悲／皮眉（1.33ウ）。蓽〔広〕房益／歩八（4.14オ）。擗〔広〕房益／頻亦（4.18オ）[*]。便〔広〕房連／頻綿（2.30オ）。否〔広〕符鄙／皮鄙（4.8オ）。鵖〔広〕武項／莫項（4.4オ）。

＊）或は『広韻』に見える別音「普撃切《滂・錫》」と比較し、《昔甲》《錫》両韻通用の傍証例（cf. 2. 2. 1. (5)）とすべきか。何れとも定め難いが今はここに置く。

このような例の見える反面、帰字の声母が重脣音である反切の上字に軽脣音化声母字が用いられている例も有る。

○『広韻』でも軽脣音化声母字が上字として用いられている例

貶〔広〕方斂／悲儉（4.32ウ）。縹〔広〕敷沼／敷沼（2.14オ）。辟〔広〕房益／扶亦（4.27オ）。便〔広〕房連／房連（2.17オ）。璅[*]〔広〕武巾／武巾（3.18ウ）。撼〔広〕亡列／亡列（3.17オ）。

*）『広韻』は「珉」に作る。

○『広韻』では重脣音声母字が上字として用いられている例

鞶〔広〕邊孔／方孔（2.30ウ）。耗〔広〕莫報／亡到（2.12ウ）。

（2）正歯音三等系列に於ける全濁声母《船（牀$_3$）》《常（禅$_3$）》の混同を示す例。『漢書』に見える、《常》母字を《船》母字で切する1例について、それが、『広韻』の体系に拠れば、顔師古音と同じ声・韻類に属す仮借字

の求められることから、この１例のみを以てしては両声母の混淆は推測し難いと述べたが[8]、『急就篇注』に下に挙げる例の見えることから、顔師古音に於ける両者の混淆は推測できそうである。

術〔広〕食聿《船》、…説文曰邑中道也…　　常出《常》、邑中之道曰術（4.31ウ）

盾〔広〕食尹《船》、干盾也　　豎尹《常》、盾一名敔亦謂之干即今旁排也（3.29ウ）

{純〔広〕常倫《常》　　順倫《船》（2.12ウ）[9]}

（３）舌頭音声母《泥》と舌上音声母《娘》の混同を示す例。同様の例は『漢書』にも見える。

撓〔広〕奴巧《泥》、撓亂　　女孝《娘》、焉于言無所屈撓也（2.8ウ）

（４）Ⅱ韻類[10]開口と結合する牙音の口蓋化を示すと解される例[11]。同様の例は『漢書』にも見える。

閒〔広〕古莧／居莧（1.14ウ）

2.1.2.　『慧琳』の反切からは窺えない特徴を示す例

（１）軽脣音声母《非》《奉》両母[12]の音価上の明確な別を疑わしめる例。『漢書』には《非》《敷》《奉》３母の混同を示す例が見える。

復〔広〕房六《奉》、返也、重也；又也、往來也、安也、白也、告也　　音福《非》、老復丁者家有高年則蠲其子孫免賦役也（4.35オ）

（２）全濁声母の無声音化・無声帯気音化を示すと解される例。同様の例は『漢書』にも見える。

（2.1）全濁声母の無声音化を示すと解される例

a.《並仄》《幫》両母混同の例

別〔広〕皮列《並入》、異也、離也、解也…　　彼列《幫》、本文：變化迷惑別故新（4.23オ）

樽〔広〕補各《鐸》、樽櫨、枡也　　音薄《並入》、樽櫨柱上之枡也（3.38ウ）

b.《定平》《端》両母混同の例[13]

綈〔広〕杜奚《定》、厚繒也　　音帝[*]《端》、厚繒也（2.15ウ）

*）『急就篇注』には「音帝徒奚反」と見える。徒は《定》母字。

c.《従仄》《精》両母混同の傍証例[14]

{鏃〔広〕作木《精》　　音族《従入》(3.2オ)}

d.《崇（牀2）仄》《荘（照2）》両母混同の例

騶〔広〕側鳩《荘》　　仕救《崇去》、疾歩曰驟（3.45ウ[*]）

*）『急就篇注』には「驟一作騶仕救反」と見える。驟は、〔広〕鋤祐《崇去》、馬疾歩也、奔也。

e.《常（禅3）》《書（審3）》両母混同の例

貰〔広〕時夜《常》、賒也、貸也　　傷夜《書》、賒也（2.17オ[*]）

*）『広韻』には「貰　舒制切《書・祭》、賒也、貸也、又時夜切」とは別に、「貰　神夜切《船・麻去》、貰賒也、貸也」も見える。或は後者を採り、《船》《書》両母混同の例とすべきか。何れとも定め難いが今はここに置く。

f.《羣仄》《見》両母混同の例

検〔広〕居奄《見》、書検、印窠封題也…　　其閃《羣上》、本文：簡札検署槧牘家（3.10ウ）

（2.2.）全濁声母の無声帯気音化を示すと解される例

a.《並平》《滂》両母混同の例

貍〔広〕敷悲《滂》、鯉子　　音邳《並》、鯉一名貍（4.5ウ）

b.《並仄》《滂》両母混同の例[15]

剽〔広〕匹妙《滂》、強取…　　頻妙、《並去》、剽亦劫也（4.29オ）

c.《定平》《透》両母混同の傍証例

{洮〔広〕土刀《透》　　音桃《定》(2.21オ)}

d. 《定仄》《透》両母混同の例[16]

稌〔広〕他魯《透》、稌稻　　音杜《定上》、稻者有芒之穀總名也亦呼爲稌*)（2.19ウ）

棣〔広〕特計《定去》、…又常棣、子似櫻桃、可食…　　吐計《透》、棣常棣也其子熟時正赤色可啗俗呼爲山櫻桃…（2.24ウ）

*）『急就篇注』には「音杜他戸反」と見える。杜は《定》母字。

e. 《従平》《清》両母混同の例

鬻〔広〕昨淫《従》、説文曰、大釜也…　　村林《清》、甑一名甗亦謂之鬻…（3.9ウ）

{鰿〔広〕自秋《従》　　千由《清》（1.16ウ）}

2.2. 韻類

韻類[17]について、声類と同様、『慧琳』の反切からも窺える特徴を示す例と然らざるものとに大別し、『漢書』と対照させつつ示す。

2.2.1. 『慧琳』の反切からも窺える特徴を示す例

（1）《盍》《合》両韻（所謂「一等重韻」）通用の例。『漢書』には両韻、及び相当平・上声韻通用の例が見える。

榼〔広〕苦盍《盍》、酒器也　　丘答*)《合》、盛酒之器（3.8オ）

*）或は「口」が誤まって写し伝えられたものか。[18]

（2）《夬》《皆》両韻（所謂「二等重韻」）通用の例。『漢書』には《夬》《佳》《皆》3韻通用の例が見える。

犗〔広〕古喝《夬開》、犗牛　　音界《皆開去》、劇牛也（3.47ウ）

{蠏〔広〕丑犗《夬開》　　丑芥《皆開去》（2.4オ）}

（3）《支》《脂》《之》3韻通用の例（但し甲：乙の対立[19]に混乱はない）。『漢書』にはこれ等3韻及び《微》韻の通用例が見える。ここでも甲：乙の

対立に混乱はない。

疹〔広〕旨夷《脂開》、積血腫腫	音紙《支開上》、歐人皮膚腫起曰疹（4.29オ）*)
髀〔広〕卑履《脂開上》、股外	必尒《支開上》、髖髀上也（3.28ウ）
錘〔広〕直垂《支合》、稱錘、或作鎚	音椎《脂合》、鐵錘以鐵爲錘若今人稱（3.31ウ）
綏〔広〕丑飢《脂開》、細葛也	救之《之》、綌一作綏、…綌謂葛靡者（2.18オ）

*）『急就篇注』には「音紙又音支《章・支》」と見える。後者を『広韻』の「疹　章移切《章・支》、毀傷」と、前者を同書の「疹　旨夷切」と比較する。

（4）《真乙》《欣》両韻通用の例。『漢書』には両韻、及び相当入声韻通用の例が見える。

靳〔広〕居炀《欣去》、靳固、又姓…*)	居覲《真去》、驂馬之帶也（3.36ウ）

*）『説文』には「當膺也…」[20]と見える。

（5）《昔甲》《錫》両韻通用の例。同様の例は『漢書』にも見える。

壁〔広〕北激《錫》、説文云、垣也、釋名曰、壁、辟也…	必亦《昔》、壁辟也（3.39オ）
襞*)〔広〕必益《昔》、襞衣、説文曰、鞸衣也	音壁《錫》、黃氏本作襞注曰鞸衣也（2.28オ）

*）『広韻』は「襞」に作る。

（6）牙音を声母とするⅡ韻開口類の拗音化を示すと解される例。同様の例は『漢書』にも見える。（用例は、2.1.1.（4）を参照。）

2.2.2.　『慧琳』の反切からは窺えない特徴を示す例

（1）《麻合》《佳合》両韻通用の例[21]。同様の例は『漢書』にも見える（但

し『急就篇注』に見えるのと同じ語の別音を示す例)。

因に、『広韻』に見える通用規範は《麻》韻を独用と規定、『中原音韻』では《佳合》韻は《麻2》韻と一類(「家麻韻」)を成し、《佳開》韻は《泰開》《皆》《哈》《夬》韻などと一類(「皆来韻」)を成す。

*)〔広〕烏媧《佳合》、蝦蟆屬　　烏爪《麻合》、本文：水蟲科斗蝦蟇(3.12オ)

*)『広韻』は「黿」に作る。

(2)《昔》《職甲》両韻通用の例。『漢書』には見えない例である。

因に、『広韻』に見える通用規範は《昔・清》韻は《麦・耕》《陌・庚》韻と同用と規定、『中原音韻』では一般に《清》《蒸》韻は《青》《庚3》韻などと共に一類(「庚青韻」)を成し、《昔》《職》韻は同音となって「斉微韻」に帰属する。

炙〔広〕之石《昔開》、説文曰、炮肉也、从肉在火上　　之弋《職開》、炙謂炙之於火上也(3.23ウ)

(3)《脂甲》《斉》両韻通用の例[22]。『漢書』には《支甲》《斉》両韻通用の1例(《来》母開口韻)が見える。

因に、『広韻』に見える通用規範は《斉》韻を独用と規定、『中原音韻』では《斉》韻は一般に歯音以外で止摂諸韻と同音になる。

毗〔広〕房脂《脂》、説文曰、人齎也…　　步迷《斉》、脽齊卽毗齊也(3.28ウ)

(4)牙音甲類合口字の合口要素の消滅を示すと解される傍証例[23]

{圂〔広〕戸萌《耕合》　　獲耕《耕開》(2.11オ)}

(5)全清声母の上・去両声の混淆例[24]

韅〔広〕呼典《上》、在背曰韅…　　許見《去》、在掖曰韅…(3.35ウ)

3.0. 以上、『急就篇注』に反映する顔師古音の特徴的様相を見た[25]。得られた例証数は少ないが、幾つかの例外を除き、何れも中古音系から近世北方音系への推移過程に於て見られる事象として説き得るものである。こ

こで明らかとなった特徴と『漢書』に反映する特徴とを併せ考えるならば顔師古音の体系は或る程度彷彿として来ようかと思う。殊に、《船》《常》両母、《昔》《職》両韻、《脂甲》《斉》両韻の混同を示す例が見えるのは、『漢書』を補って大いに参考となる。中でも、『慧琳』の反切からは窺えない特徴を示す後二者は、梗・曾両摂の合流、止・蟹両摂の合流の先駆けと解することが許されるならば極めて興味深く、唐代音系を探る上で示唆的である。そして、顔師古音の体系が『切韻』の体系より遙かに単純であったらしいとの推測に大きな誤りはないと言えようかと思う。

唐代の音韻史研究の上で重要な資料の一つとして在る音義類については、『慧琳』を初め幾つかの整理・研究がこれ迄にも成され、多くの見るべき成果が挙げられているが、唯、そこでは仏僧によって著わされた一切経音義が専ら研究の対象とされ、これに対して、史籍などに付された唐儒等による音義注は音韻史資料として利用されることは少なく、概ね等閑に付されてきたのであった。それは、このような音義注が難字に対する音訓注釈を主たる目的とするものであるために、得られる音注例は断片的であって声韻全般を網羅するものではあり得ず、又、量的にも多くを期待することはできないのでそれ等による体系化は全く望めないと予想されたためであろう。併しながら、資料の性質を弁え、整理の方法に誤りなきよう注意して扱うならば、これ等は、これ迄の拙論が或る程度実証的に示すように、仏僧の音注に拠りつつ構築された唐代音韻史では映し出されない側面に光を当て得るものと言えよう。固より資料的価値からすれば、韻書などより遙かに劣る断片的な音注例であるから過大評価は厳に慎まねばならないが、これ等の余すところのない整理は、今後の唐代音韻史研究に与って参考とさるべき少なからぬ資料を提供し得ると思う。

註

1）唐代に著わされた音義類には、大別して、仏僧による一切経音義と儒者等によって史籍などに付された音義注の2種が有る。ここで音義類と呼ぶのは専ら後者を指す。詳しくは、拙稿「史記索隠・正義音韻考」『東洋学報』55巻3号、1972. を参看。

2）顔之推（『切韻』の編者の一人、『顔氏家訓』の著者）を祖父と仰ぐ。その日常話すところの言語は唐都長安に於ける士大夫階級のそれであったと推考される。伝の詳しくは、『旧唐書』 巻七十三本伝、及び『新唐書』巻百九十八本伝を参照。

3）『急就篇注』の成書時はその序にも見えず不詳であるが、その注叙に「秘書監弘文館学士上護軍琅邪県開国子顔師古」とあること、顔師古が琅邪県に封ぜられたのは太宗（在位：A.D. 627-650）の即位後であること（詳しくは顔師古伝を参照）の2点から、それを西暦627年から644年迄の或る年と推定しておく。尚、本稿で用いるテキストは「小学彙函」所収の『玉海附刻本』である。この他必要に応じて「津逮秘書」所収本を併せ見た。

4）「顔師古漢書音義韻類考」『言語研究』59号、1971.「顔師古漢書音義の研究（上）」『北海道大学文学部紀要』17-1（資料表を主とする）、1969.「同（下）」『同紀要』19-4（声類を扱う）、1971。以下、『漢書音義』に関してはこれ等の拙論に拠る。

5）ここで得られる音注例は断片的であって、所謂「系聯法」を適用しても多くは期待できない。従って止むを得ざる次善の方法として『切韻』（以下、周祖謨『広韻校本附校勘記』中華書局、1960. を以て代用させ『広韻』と呼ぶ）に基準を求め、そこに音注例を投影させることによって現われる「ずれ」の内、体系上の「ずれ」を示すと解される例のみを採って考察の対象とする。詳しくは、拙稿「顔師古漢書音義韻類考」上掲論文、pp. 44-46 を参照。

6）以下、『慧琳』に関しては、黄淬伯『慧琳一切経音義反切攷』歴史語言研究所専刊之六、1931. に拠る。

7）テキストに見える個所を、巻・頁・表（オと略記する）、裏（ウと略記する）の別、の順に記す。

8）拙稿「顔師古漢書音義の研究（下）」上掲論文、pp. 14-15。

9）『広韻』と体系上の「ずれ」を示す確証とは認め難いが、中国語音韻史の史的変遷に沿うと解される音注は傍証例として { } に入れて補う。詳しくは、拙稿「顔師古漢書音義韻類考」上引論文、p. 15、脚注11を参照。尚、傍証例については意味に関する記述を省略し、資料表に譲る。

10）本稿で用いる『広韻』韻類の類別の呼称の一つ。所謂「二等韻」はここに含まれる。詳しくは、拙稿「史記索隠・正義音韻考—資料表—」『北海道大学文学部紀要』21-2、1973. p. 29 を参照。

11）『慧琳』に於ける二等韻開口と結合する牙音の口蓋化に関する推測の根拠については、拙稿「史記索隠・正義音韻考」上掲論文、註28を参照。

12) 軽脣音声母は、整理の拠り所とする『広韻』の体系では認められないが、記述上の便宜から本稿ではこれを設けてある。

13) 中古音の体系から近世北方音への推移の過程に於て、濁声母の平声は無声帯気音化し、その仄声は無声音化すると一般に説かれるところに従えば、本例及び以下の(2.2) b. d. は例外となる。尚、本稿は中古音に於ける全濁声母は無気音であったとする説に従う。cf. 李栄『切韻音系』語言学専刊第四種、1952.

14) 『急就篇注』に《従仄》《精》両母が別音として並記されている例も見える。裁 才代反《従・代》又音再《精・代》(3. 39 ウ)。唯、『急就篇注』には、以下に示す如く、『広韻』の体系に拠ると又音が必らずしも別音を示すとは限らない例も見えるが、詳細は不明である。緻 馳二反又丈致反(何れも《澄》母《至》韻)(2. 15 ウ)、禰 始移反又式支反(何れも《書》母《支》韻)(2. 15 ウ)、篴 市縁反又市専反(何れも《常》母《仙》韻)(3. 5 オ)

15) cf. 註12

16) cf. 註12

17) 韻目は平声韻を以て上・去声韻をも兼ねさせる。但し、去声韻のみ韻及び入声韻はそれぞれの韻目を記す。

18) 因に、『広韻』に見える反切上字の系聯法による整理結果に拠れば、苦類と去類の別は、古類と居類の別などと同様に余り明確ではない。cf. 陸志韋「證広韻五十一声類」『燕京学報』第25期、1939. など。

19) 拗音韻の内、等韻図に於て占める位置に即して言えば、四等欄に置かれる韻に見える示差的特徴を甲、三等欄に置かれる韻に見える示差的特徴を乙と呼ぶ。その別を示す必要の有る時は韻目に甲・乙の小字を付す。

20) 引用は、丁福保編『説文解字詁林及補遺』台湾商務印書館、1959. に拠る。

21) 『慧琳』、玄応『一切経音義』に《佳》韻字の反切下字に《麻》韻字の用いられている個別的事例は見える。cf. 黄淬伯『慧琳一切経音義反切攷』前掲書、p.37、周法高「玄応反切考」『歴史語言研究所集刊』20本上、1948. p.407。

22) 『急就篇注』に《脂甲去》《斉去》両韻が別音として並記されている例も見える。 臭 必至反《脂甲去》又博計反《斉去》(3. 5 オ)。或は伝統的反切をそのまま記したものか(cf.『広韻』博計切又必至切)。尚、註13を参照。

23) cf. 有坂秀世「脣牙喉音四等に於ける合口性の弱化傾向について」『国語音韻史の研究』(増補新版)三省堂、1944. 所収。

24) 中古音の体系から近世北方音への推移過程に於て、全濁声母の上声は去声に転じ、全清声母の上声は上声に転ずると一般に説かれるところに従えば、本例は例外となる。

25) この他、《日》母字の反切下字として乙類字の用いられている例(衽 人禁反(2. 26 ウ)、蒻 如約反(3. 14 ウ)。(この他、顔師古音に於ける《章》母の cerebral 化が既に起っていたとの推測が許されるならば、腸 而灼反(3. 24 オ)、餌 而志反(2. 20 ウ)

も）などは顔師古音に於ける《日》母の cerebral 化の有無について考察する上で参考となろう。cf. 三根谷徹「韻鏡の三・四等について」『言語研究』22・23号、1953. pp.71-72, 拙稿「顔師古漢書音義韻類考」前引論文、pp.55-56。

—— 資　　料　　表 ——

凡　　例

1.　この表は顔師古『急就篇注』に見える音注を『広韻』の体系に準拠して整理・配列したものである。

1. 1.　音注例にはテキストに見える個所を、巻・頁・表（オと略記）、裏（ウと略記）の別、の順に示す。

2.　配列の方法・順序は次の如くである。

2. 1.　韻類をⅠ・Ⅱ・ⅢA・ⅢB・Ⅳの５類に大別する。

Ⅰ韻類：東$_1$ 屋$_1$・冬沃・模・哈・泰・灰・痕没・寒（桓）曷（末）・豪・歌・戈$_1$・唐鐸・侯・登徳・覃合・談盍、及び相当上・去声韻より成る。

Ⅱ韻類：江覚・佳・皆・夬・刪鎋・山黠・肴・麻$_2$・耕麦・咸洽・銜狎、及び相当上・去声韻より成る。

ⅢA韻類：支・脂・之・祭・真（諄）質（術）・臻櫛・仙薛・宵・麻$_3$・清昔・庚$_3$ 陌$_3$・蒸職・幽・侵緝・塩葉、及び相当上・去声韻より成る。

ⅢB韻類：東$_3$屋$_3$・鍾燭・微・魚・虞・廃・欣迄・文物・元月・戈$_3$・陽薬・尤・厳業・凡乏、及び相当上・去声韻より成る。

Ⅳ韻類：斉・先屑・蕭・青錫・添怗、及び相当上・声韻より成る。

尚、ⅢA韻類は、声母が脣・牙喉音（但し于母は除く）で韻図の四等欄に配されているものには甲の、同じく三等欄に配されているものには乙の小字を付して区別する。本表ではこれを声母に付して示す。

2. 2.　各韻類を十六韻摂に従い分類する。

2. 3.　各韻摂内に於て韻部に分類し、縦欄に韻目を平・上・去・入の順に配す。

2. 4.　各韻摂内に於て横欄に声母を配す。声母名及び配列の順序は次の如くである。

脣音　　幫・滂・並・明

舌音	舌頭音		端・透・定・泥・来
	舌上音		知・徹・澄・娘
歯音	歯頭音		精・清・従・心・邪
	正歯音	二等	荘・初・崇・生・俟
	正歯音	三等	章・昌・船・書・常・日・羊
牙喉音			見・渓・羣・疑・暁・匣・影・于

3. 表中に音注を配する場所は、音注字の音が『広韻』の音韻体系に於て占める位置に拠る。それが帰字の音の『広韻』の音韻体系に於て占める位置と一致しない（即ち「ずれ」の見られる）場合には注記する。

3. 1. 注記は、

（1）当該音注がテキストに見える個所、

（2）帰字の『広韻』に見える反切、

（3）帰字の韻図に占める位置（声母・韻目・開合・等位）、をこの順に示す。

3. 2. 『広韻』の体系と「ずれ」を見せる帰字の内、

（1）意味上それ等の仮借字と解されるものが求められる場合にはその仮借字を示す。その際は＊印を当該字の左肩に付して他と区別すると共に、そのように解する典拠となった書目を記す。

（2）固有名詞である場合には〈人名〉、〈地名〉などと付記する。

（3）『広韻』には見えない又音と解される場合にはその旨をテキストに見える注記に従って付記する。

（4）本論で扱われている例については当該字の本論で見える場所を矢印の次に付記する。

4. 『広韻』に見えない文字は｛ ｝内に入れる。又、『広韻』で別の字体に作るものは◦印を左肩に付して示し、その旨を当該字の表中に見える個所に注記する。

I 韻 類

通 攝

	東	董	送	屋
幫明		方孔 蠓 2.30ウ		音木 鶩 4.1オ
端定	音東 凍 4.14ウ 大東 篫 3.16オ	徒孔 桶 3.7オ		音瀆 韇 2.13オ
來				音鹿 漉 3.5ウ
精		作孔 總 3.15オ		
見 羣 匣	古紅 鈧 3.4オ 音工 鈧 3.2ウ 3.4オ 渠弓 {窮} 4.13ウ		音貢 贛 3.7オ	音谷 轂 3.33オ 胡谷 轂 1.36ウ 2.15オ

	冬		宋	沃
匣				胡篤 鵠 4.1オ

遇 攝

	模	姥	暮	

透 定 泥		他戶 稌[1] 2.19ウ 音杜 稌 2.19ウ 肚 3.28オ 菹 3.35ウ 奴古 弩 3.31オ	他故 吐 4.9ウ	
來	音盧 纑 3.10オ 蘆 3.23オ 櫨 3.38ウ		音路 °落 4.12オ	°広韻「蠹」に作る
精 清		音祖 組 2.18ウ	七故 酢[2] 2.22オ 音醋 酢[3] 3.24オ	
見 疑 匣	攻乎 瓜[4] 4.15オ 音沽 酤 3.24ウ 音姑 樗 2.22オ 音孤 觚 1.36ウ 箘 4.28オ 音吾 鼿 4.5ウ	音古 羖 3.45ウ 音扈 雇 4.3ウ		

(1) 稌 (2.19ウ)〔広〕他魯切(透姥合一)又他胡切 → 2.1.2.(2.2.)d.

(2) 酢 (2.22オ, 蕪荑鹽豉醯酢醬)〔広〕在各切(從鐸開一)

(3) 酢 (3.24オ, 大酸謂之酢)〔広〕cf.(2)

(4) 瓜 (4.15オ〈又音〉, 土瓜一名菲)〔広〕古華切(見麻合二)

蟹　摂

	咍	海	代	
透 泥	音台 鮐 3.12ウ		他代 貸 2.17オ 乃代 耐 2.30オ	
來	音來 綵 4.5ウ			
精 從 心	音哉 栽 3.28オ		音再 栽[1] 3.39ウ 才代 栽 3.39ウ 在代 裁 3.17ウ 先代 塞 4.17ウ 4.37オ	
羊		弋亥 改[2] 3.19ウ		
見 溪 曉 匣	音該 殺[3] 3.19ウ	 音海 醢 2.22ウ	苦代 欬 4.9ウ 鎧 3.31オ 胡槩 劾 4.24ウ	

			泰開	
滂			音貝 沛 3.47ウ	
定 泥			音大 鈦 4.27オ 奴帶 柰 2.24オ	

清			音蔡{鵜}4.3オ	

	灰	賄	隊	
明	音枚°玫 3.18オ	°広韻「玟」に作る		
端	丁回 堆 4.3ウ		得悔 碓 3.40ウ	
			音對 碓 3.40ウ	
定	大回 魋 1.20オ	徒猥{鐵}3.3オ		
	音頽 隤 3.40ウ			
來			力對 耒 3.42オ	
精			子內 卒[4] 3.46オ	
清		千賄 淮 4.7ウ	千對 磪 3.41オ	
溪	口回 悝 1.22ウ			
疑			五對 磑 3.40ウ	
匣	音回 槐 3.44ウ		戶對 績 3.15オ	
	瑰 3.18オ			
影		烏賄 猥 4.30オ		

			泰合	
幫			音貝 犮 3.47ウ 4.32ウ	
滂			普外 犮[5] 3.47ウ	

見			古外 膾 3.23ウ 膾 3.40オ 音膾 膾 3.40オ 音會 薈[6] 2.21オ	

(1) 栽 (3.39ウ〈又音〉、栽築牆也) 〔広〕祖才切 (精咍開一) 又昨代切

(2) 改 (3.19ウ、…以金玉及桃木刻而爲之一名殺改…) 〔広〕詳里切 (邪止開四) 又羊已切

(3) 殺 (3.19ウ、cf.(2)) 〔広〕苦哀切 (淺咍開一)

(4) 卒 (3.46オ、羣羊未卒歲也) 〔広〕子聿切 (精術合四) 又臧沒、倉沒二切

(5) 牸 (3.47ウ、牸二歲牛也) 〔広〕博蓋切 (幫泰開一)

(6) 薈 (2.21オ、鸏一名鴻薈) 〔広〕烏外切 (影泰合一)

臻　　摂

	痕	很	恨	
見 溪	音根 跟 3.29オ	口很 墾 3.4オ		

	魂	混	慁	沒
幫	音奔 賁 3.32オ			
端 定	都昆 敦[1] 2.6ウ 徒渾 臀 4.25ウ 音屯 敦 4.37オ	◦広韻「臀」に作る 徒本 笨 3.5オ		
來	盧昆 論 4.19オ 4.27オ			

精	祖昆 尊 2.27才			
	縛 2.27才			
清				千忽 猝 4.31才
見	古渾 褌 2.26才			
溪	苦門 髡 4.27才			
	口昆 髡 1.25ウ			
曉	虎渾 葷[2] 2.21ウ			
匣		胡本 焜 3.36ウ	胡困 溷 3.40ウ 4.33才	

(1) 敦（4.37才、本文：敦煌）〔広〕都昆切（端魂合一）又都困、都回二切。
　*燉〔広〕徒渾切（定魂合一） cf. 段玉裁『説文解字段氏注』

(2) 葷（2.21ウ、薑禦溼菜也辛而不葷故齊者不撤焉）〔広〕許云切（曉文合三）

山　摂

	寒	旱	翰	曷
明	莫干 蔓[1] 2.23ウ			
端	多安 禪 2.26ウ	音亶 癉[2] 4.9ウ		
	音單 禪 2.27才			
定		徒旦 觛 3.7ウ		
		音但 觛 3.7ウ		
泥			乃旦 難 4.25才	
來				來葛 剌 3.1才

心		思但 饊 2.24ウ		
見疑匣影	音干 杆[3] 3.2ウ 音寒 邯 4.32ウ	工旱 稈 3.48オ	吉旦 衎[4] 1.25オ 侯旰 悍 4.31オ	五葛 枿 4.28オ 音曷 鶡 3.47オ 烏葛 閼 2.4オ 於葛 閼 2.9ウ 音遏 頞 3.26ウ

	桓	緩	換	末
幫滂並明	謨官 謾 4.28ウ		音半 靽 3.35ウ 普半 °胖 3.23オ 薄半 畔 3.42オ 莫半 縵 2.12ウ 幔 3.15オ	◦広韻「眸」に作る 音末 沫 3.36オ
透定	徒端 °鷻 4.3オ	◦広韻「鷙」に作る		他活 梲 3.31ウ
來				來奪 捋 4.2ウ
精從心	借官 鑽 3.1ウ 在官 攢[6] 3.32オ	音纂 簪[5] 3.8オ	蘇判 蒜 2.23オ	
見	音官 莞 3.14ウ	音管 輨 3.33オ	工喚 矔 1.20オ	古活 栝 4.13ウ

			觀 1.28ウ	音括 鴰 4.2才
溪	音寬 髖 2.28ウ			
曉	火官 讙 1.36才			
	音權 貛 4.6才			
匣	胡官 轘[7] 4.16才			胡闊 活 3.12ウ
	戶官 萑 3.23才			
	音完 莞 3.14ウ			
	垣[8] 3.39才			
	音丸 紈 2.14才			
影		烏管 盌 3.6ウ	烏貫 椀 3.27ウ	
		椀 3.6ウ	腕 3.27ウ	

(1) 蔓（2.23ウ、菁蔓菁也一曰冥菁亦曰無菁又曰芴菁）〔広〕母官七切（明桓合一）又無販七切

(2) 癉（4.9ウ、癉熱黃病也）〔広〕都寒七切（端寒開一）又丁可、丁佐二七切。*癉〔広〕多旱七切（端旱開一） cf. 段玉裁『説文解字段氏注』

(3) 杆（3.2ウ、其形若杆）〔広〕古案七切（見翰開一）

(4) 衍（1.25才、〈人名〉）〔広〕苦旰七切（溪翰開一）又空旱七切

(5) 簪（3.8才、樽榼桮擿匕箸簪）〔広〕作含七切（精覃開一）又側吟七切

(6) 攢（3.32才、糾攢也）〔広〕則旰七切（精翰開一）又在玩七切

(7) 轘（4.16才、…轘菌一名轘蘆生東海池澤…）〔広〕古玩七切（見換合一）

(8) 垣（3.39才、泥塗塗堅壁垣墻）〔広〕雨元七切（于元合三）

效　摂

	豪	晧	号	
幫		音保 {鴇} 4.2才		

明			亡到 紁 2.12ウ 音耄 紁 2.12ウ	
透 定	吐高 韜 3.25ウ 徒高 濤 1.17ウ 徒刀 翿 4.2ウ 鞉 3.21オ 音桃 洮[1] 2.21オ		徒到 翿 4.2ウ	
來	音勞 醪 3.24ウ	音老 轑 3.34ウ 音潦 轑 3.33オ		
精		子老 澡 3.17オ		
見 溪 疑 曉 匣 影	 苦高 尻 3.28ウ 音敖 螯 3.13オ 音豪 號 4.29ウ	古老 豪 3.48オ 音鎬 鎬 3.13ウ 音襖 廒 4.6オ	 呼報 好 1.14ウ 音耗 好 3.18オ	

(1) 洮（2.21オ、甘豆羹以洮米泔和小豆而煮之也）[広]土刀切（透豪開一）又餘昭切 → 2.1.2.(2.2.)C.

果　摂

	歌	哿	箇	
幫明		波我 簸[1] 3.6才 3.40ウ	甫佐 簸[2] 3.6才 莫賀 磨[3] 3.41才	
定	徒何 鮀 1.34ウ			
來	音羅 羸[4] 4.4ウ			
從	才何 差 2.23才			
溪	音珂 軻 2.6才	枯我 軻 2.6才		

	戈	果	過	
明			音摩 磨 3.41才	
透定	禿頗 橢[5] 3.6ウ	徒果 隋[6] 3.47才 特妥 {鑵} 3.3才 音墮 {鑵} 3.3才		
泥			乃貨 稡 2.20ウ	
來	來戈 鑼 3.2才	郎果 蓏 2.25才 羸 4.14才		
精清從			子臥 挫 3.11ウ 采臥 莝 3.48才 才臥 坐 3.22ウ 4.30才	

見	工禾 鍋 3.2才	音果 裹 2.18才		
	古禾 過 1.34ウ 4.36ウ			
溪		口果 顆 1.16ウ		

(1) 簸（3.6才、箕可以簸揚及去糞帚…、3.40ウ、碓磑扇隤舂簸揚）〔広〕布火切（幫果合一）又補過切

(2) 簸（3.6才、cf.(1)）〔広〕cf.(1)

(3) 礳（3.41才、碓所以舂也磑所以礳）〔広〕摸臥切（明過合一）

(4) 臝（4.4ウ、…似馬而有青色一曰距虛似臝而小）〔広〕落戈切（來戈合一）

(5) 橢（3.6ウ、橢杅槃案桮閜盌）〔広〕他果切（透果合一）

(6) 豶（3.47才、豶犗豕亦謂之豶）〔広〕悅吹切（羊支合四）又羊捶切

宕　摂

	唐開	蕩開	宕開	鐸開
幫				音博 髆 3.27才
滂				普各 蓴 2.23ウ
				膊 3.24才
				粕 3.48才
並				音薄 欂[1] 3.38ウ
				韡 3.35ウ
端			丁浪 當 4.30ウ	
			覍 3.9ウ	
透				他洛 橐 2.16ウ
定	音唐 餳[2] 2.24ウ			大各 鞾 2.31才

				度 4.32オ 徒各 度 1.25ウ 待洛 度 3.39ウ
來	力當 郎 2.20ウ 盧當 郎 2.20ウ			音洛 樂 4.35オ 音落 答 3.6オ
精 清 從 心	子桑 *牲 3.45ウ 音倉 鶬 4.2ウ 音桑 {轢} 3.33オ	*広韻「牲」に作る	徂浪 藏 3.28ウ	在各 柞 3.11ウ 笮 3.11ウ 先各 鞣 2.31オ
溪 疑 曉 影	苦岡 濂 3.33オ 音康 {糠} 3.32ウ 五郎 卬 2.9オ 顏當 卬 2.29オ			五各 鄂 3.37ウ 呼各 赫 1.18ウ 音惡 堊 3.39オ

	唐合	蕩合	宕合	鐸合
見			工曠 廣[3] 1.28オ 音曠 纊 2.16ウ *絖 2.16ウ	 *広韻「纊」に作る
匣	音黃 璜 3.18ウ			胡郭 穫 3.43オ

(1) 欂（3.38ウ）〔広〕補各切（幇鐸開一）又蒲革、弼戟二切 → 2.1.2.(2.1.)a.

(2) 餳（2.24ウ〈又音〉、本文：棗古瓜棣饊飴餳）〔広〕徐盈切（邪清開四）。
cf. 沈兼士『広韻声系』「案餳、元泰定本、明内府本及符山堂本均作餳、又説文錫、段注改作餳」

(3) 廣（1.28才、…春秋左氏傳曰廣有一卒…）〔広〕古晃切（見蕩合一）

流　摂

	侯	厚	候	
並		音部 瓿 3.9才		
端 定	丁侯 兜 3.31才 音兜 覬 4.10才 大侯 緰 2.17才			
來	洛侯 婁 3.46ウ 簍 3.6才 音婁 簍 3.6才	洛口 甊 3.9才	音漏 瘻 4.9ウ	
清 心		音叟 {篗} 3.5ウ	千豆 湊 3.33才 先豆 瘷 4.9ウ 嗽 4.9ウ	
見 疑	古侯 篝 3.5才 音鉤 句 1.33才	我后 拇[1] 3.27ウ 音偶 髃 3.28才	工豆 遘 2.11ウ 古候 購 4.29才	

匣 影	音侯 鍭 3.30オ 焉侯 歐 2.5ウ 烏侯 區 2.3ウ 謳 3.22オ	於口 歐 4.30オ		

(1) 拇（3.27ウ、拇大指也）〔広〕莫厚切（明厚開一）

曾　摂

	登開	等開	嶝開	徳開
端	丹增 鐙[1] 3.2ウ 音登 鐙[2] 3.2ウ 簦 3.4ウ			
來	盧登 棱 1.13ウ			音勒 肋 3.28オ
匣				胡得 劾 4.24ウ

(1) 鐙（3.2ウ、…其形若杆而中施釭有柄者曰鐙…）〔広〕都鄧切（端嶝開一）

(2) 鐙（3.2ウ、cf.(1)）〔広〕cf.(1)

咸　摂

	覃	感	勘	合
透			○広韻「帀」に作る	他合 鎝 4.27オ 他匝 蹅 2.28オ 音踏 蹅 2.28オ

定泥	徒南 譚 2.5ウ 鐔 3.30オ			音沓 楷 3.38ウ 音納 軜 3.34オ
來		慮感 壈 2.6ウ		
心	蘇含 糝 3.47ウ			速沓 靸 2.29オ
見		音感 鑑 3.7オ	古暗 紺 2.14ウ	工沓 合 3.7ウ
溪		苦感 轗 2.6オ		丘答 榼[1] 3.8オ
匣		口感 坎 2.6ウ		
影	烏含 鷐 4.3ウ	下感 頷 4.1オ	胡暗 含[2] 1.21オ	

	談	敢	闞	盍
端	丁甘 擔 3.5オ 3.43ウ		丁濫 擔 3.43ウ	
透		他覽 菼 3.23オ		
		他敢 菼 4.12オ		
定泥	徒甘 談 1.32ウ 乃甘 聃[3] 1.34ウ			
來				音臘 鑞 3.2ウ
見	音甘 泔 2.22オ			

山　　摂

	刪開	潸開	諫開	鎋開
生	音刪 疝 4.8ウ		音訕 疝 4.8ウ	
見			古鴈 鐧 3.4オ 音諫 鐧 3.4オ	
匣				音轄 鎋 3.4オ 音牽 轄 3.33オ
影		於諫 鴳 4.3オ 音晏 鴳 4.3オ		

	山開	産開	襉開	黠開
並				步八 萆[1] 4.14オ
澄			丈莧 綻 2.27ウ	
生				音殺 樧 2.23オ
見			居莧 閒 1.14ウ	
溪				口黠 挈 4.14オ

	刪合	潸合	諫合	鎋合
明			音慢 謾 4.28ウ	
見	古頑 綸 2.18ウ			

疑 匣			五惠 蘿 3.23オ 音惠 豢 4.27ウ 音宦 豢 1.23ウ	

	山合	産合	襉合	黠合
幇				博拔 捌 3.43オ
莊				側滑 札[2] 3.10ウ

(1) 草 （4.14オ、栝樓一名果蠃…以爲草挈非也）〔広〕房益切（並昔開四）

(2) 札 （3.10ウ、簡札檢署繫牘案）〔広〕側八切（莊黠開二）

效　摄

	肴	巧	效	
娘			女孝 撓[1] 2.8ウ	
初 生	山交 筲 3.5ウ 筲 3.5ウ	初狡 爪 3.13ウ		
見 匣	胡交 筊 3.21ウ	古卯 狡 3.46ウ 功巧 絞[2] 2.26ウ	胡孝 校 1.15ウ	

(1) 撓 （2.8ウ）〔広〕奴巧切（泥巧開二）又呼毛切 → 2.1.1.(3)

(1)　榼（3.8オ）〔広〕苦盍切（溪盍開一）→ 2.2.1.(1)

(2)　含（1.21オ、…春秋稱天王使榮叔來含…）〔広〕胡男切（匣覃開一）

(3)　聃（1.34ウ、祝氏鄭祝聃之後也…）〔亻　他酣切（透談開一）

Ⅱ　韻　類

江　摂

	江	講	絳	覺
幫				邦角　駮 3.45オ
並	皮江　龐 1.35オ	平項　蚌 3.18オ		
明	莫江　駹 3.45ウ	莫項　鶬 4.4オ		
知				竹角　啄 3.47ウ 直角　濯 3.17オ
見	古雙　釭 3.4オ 音江　杠 3.14オ 3.35オ		○広韻「慤」に作る	己角　°慤 1.23ウ 音角　埆[1] 4.24ウ 桷 3.38ウ
匣	胡雙 {坂} 3.9ウ		侯降 {坂} 3.9ウ	

(1)　埆（4.24ウ、…獄之言埆也）〔広〕苦角切（溪覚開二）

蟹　摂

	佳開	蟹開	卦開	
並		簿蟹　罷 2.1ウ		
匣		音蟹　解 2.9ウ		

	皆開	駭開	怪開	
並	音排 俳 3.22オ			
徹			丑芥 薹[1] 2.4オ	
莊			側界 瘵 4.9オ	
見	古諧 街 4.31ウ		音界 犗[2] 3.47ウ 音皆 鶛 4.3ウ	
匣			戶界 𩿨 2.21オ	

	佳合	蟹合	卦合	
匣			胡卦 絓 2.16オ 畫 3.17オ	

	皆合	駭合	怪合	
匣	音懷 櫰 3.44ウ			

			夬	
見			加敗 犗 3.46オ	

(1) 薹（2.4オ、齊公孫薹〈人名〉）〔広〕丑犗切（徹夬開二）→ 2.2.1.(2)（傍証例）

(2) 犗（3.47ウ）〔広〕古喝切（見夬開二） → 2.2.1.(2)

(2)　袨（2.26ウ〈又音〉、袴謂脛衣也大者謂之倒頓小者謂之袨衧…）〔広〕古了切（見篠開四）

假　　摂

	麻開	馬開	禡開	
幫	音巴 豝 3.46ウ	博下 把 3.43オ	音霸 把[1] 3.4ウ 3.21オ 3.29ウ 3.30ウ 3.32オ 3.42オ 3.46オ	
並	蒲巴 杷 3.43オ			
明	音麻 °蟇 3.12オ	○広韻「蟆」に作る		
見	古瑕 豭 3.46ウ	古雅 夏[2] 1.39ウ		
	古牙 痂 4.7ウ	加雅 瘕 4.8ウ		
	音加 麚 4.7オ			
	駕 1.21ウ			
	葭 3.23オ			
曉		呼雅 閜 3.6ウ		
匣	乎加 {緞} 2.28オ	户把 踝[3] 3.29オ		
	音遐 {緞} 2.28オ			
	蝦 3.12オ			
	鰕 3.12ウ			
	瘕[4] 4.8ウ			

	麻合	馬合	禡合	
知	陟瓜 檛 3.31ウ			

匣	下瓜 茉[5] 3.42才			
影	烏瓜 °𧊒[6] 3.12才	○広韻「𧊒」に作る		

(1) 把 (3.4ウ.…大而有把手執以行謂之簦…, 3.21才.…鞀貫把鼓也…、3.29ウ.…鋋鐵把小矛也…、3.30ウ.…鐔劒刃之本入把者也、3.32才.…一曰柲者總言矛戟之把也、3.42才.古者倕作耒今之曲把茉鍬其遺象也、3.46才..以爲刀子把爾雅曰羱如羊卽謂此也)〔広〕博下切(幫馬開二)。『唐韻』(劉復等編『十韻彙編』所收)には「必駕反又北下反」と見える。

(2) 夏 (1.39ウ、晉有邴豫邴師齊有邴歜邴夏…〈姓〉)〔広〕胡雅切(匣馬開二)又胡駕切

(3) 踝 (3.29才、踝足之内外踝也)〔広〕胡瓦切(匣馬合二)

(4) 瘕 (4.8ウ、瘕癥也)〔広〕古牙切(見麻開二)又古疋、古訝二切

(5) 茉 (3.42才、耒手耕曲木也古者倕作耒今之曲把茉鍬其遺象也)〔広〕户戈切(匣戈合一)

(6) 𧊒 (3.12才)〔広〕「𧊒」烏媧切(影佳合二)又户媧切 → 2.2.2.(1)

梗　摂

	庚開	梗開	映開	陌開
並	音彭 榜 4.25ウ			
明	音盲 耒[1] 3.39才			莫白 貊 3.1才 音陌 貉 2.27ウ
徹	丑庚 {蹀} 3.35才			
澄	丈庚 {蹀} 3.35才			
崇				仕客 齰 3.27才
見	工衡 更 4.23才 古行 秔 2.19ウ	古杏 梗 4.15ウ 音梗 綆 3.10才		

匣	音衡 胘 3.29オ		下孟 行 4.20ウ 下更 胘 3.29オ	

	耕開	耿開	諍開	麥開
幫			布諍 迸 4.29オ	布麥 擘 2.16ウ
莊 初				音責 幘 3.25ウ 初責 嘖 3.25ウ
見 溪 匣 影	口耕 鯁 1.32ウ 獲耕 閎[2] 2.11オ 烏莖 罂 3.8ウ	古幸 耿 2.7オ	◦広韻「厄」に作る ◦広韻「豭」に作る	音厄 °梏 3.34ウ °豭 3.46ウ

	耕合	耿合	諍合	麥合
見				俱獲 蝈 3.12ウ

(1) 耒（3.39オ、梁屋上梁也一名耒檷）〔広〕莫郎切（明唐開一）又武方切

(2) 閎（2.11オ、…漢有閎孺〈姓〉）〔広〕户萌切（匣耕合二）→ 2.2.2.(4)

咸　　摂

	咸	銜	陷	洽
初				楚洽 插 3.43オ

見				古洽 袷 2.26オ
匣	音咸 諴 4.34オ			
影		於減 黯 1.16ウ		

ⅢA 韻 類

止 攝

	支開	紙開	寘開	
幇甲	必瀰 卑 3.6オ	并弭 箄 3.6オ		
		音俾 箄 3.6オ		
		必°尔 髀[1] 3.28ウ	○広韻「尒」に作る	
乙	彼宜 羆[2] 2.9ウ			
滂甲		匹婢 疕 4.7ウ		
乙	音披 鈹 3.30オ			
	帗 2.26オ			
並甲		音婢 庳 3.9ウ 3.21ウ 3.41ウ 4.3ウ 4.5オ		
乙	音疲 罷 2.1ウ			
明甲		莫°尔 芈 1.19ウ	○広韻「尒」に作る	
		弭 3.31オ		
乙	音眉 {土眉} 3.41ウ			
来	力知 驪 3.45オ			
徹	音离 {木离} 2.24オ			

精	子移 帣 2.17オ			
	音貲 帣 2.17オ			
清			七賜 刺 4.10ウ	
從			材賜 漬 2.16ウ	
			音漬 眥 4.10オ	
心	息移 榹 3.8オ			
生	山奇 簁 3.6オ	所綺 簁 3.6オ		
章	音支 疻[3] 4.29ウ	音紙 疻 4.29ウ	之豉 觶 3.8オ	
	卮 3.7ウ	音只 軹 3.34オ		
昌	充支 眵 4.9ウ	音侈 鉹 3.9ウ		
書	式支 °繭 2.15ウ			
	鍦 3.29ウ	○広韻「纏」に作る		
	始移 °繭 2.15ウ			
	音施 °繭 2.15ウ			
	鍦 3.29ウ			
常	上支 匙 3.8ウ			
羊	羊支 °鉈 3.3ウ	○広韻「匜」に作る	以豉 易 3.25オ	
	匜 3.3ウ		弋豉 易 2.30オ	
	音移 °訑 4.28ウ	○広韻「詑」に作る		
溪乙	丘宜 崎 3.35オ	去倚 綺 2.15オ		
羣甲	祈支 軝 3.33オ			
乙	巨宜 魃 3.19オ	渠綺 伎 3.22ウ	其寄 騎 3.21ウ	

	音奇 魁 3.19オ			
疑乙	音儀 轙 3.34オ	音蟻 轙 3.34オ		
影乙	於奇 椅 3.44オ	於綺 倚 2.5ウ		
于		于彼 蔦[4] 1.36ウ		

	脂開	旨開	至開	
幫甲		音比 秕 3.41オ	必寐 庇 2.2オ	
			畀 3.6オ	
			必至 箅[5] 3.5オ	
			音庇 痹 4.8オ	
乙			音祕 柲 3.31ウ	
			弊 1.25ウ	
並甲	音毗 膍 3.28ウ		頻寐 比 3.15ウ 3.42オ	
	貔 4.5ウ			
乙	皮眉 邳 1.33ウ	皮鄙 {帊} 2.16ウ		
	音邳 狉[6] 4.5ウ	否 4.8オ		
明乙			音媚 魅 3.19ウ	
澄	音°箔 鮐[7] 3.12ウ	◦広韻「浩」に作る	直利 稚 1.24ウ	
			馳二 緻 2.15ウ	
			丈致 緻 2.15ウ	
精心	音咨 粢 2.20オ		音四 柶 3.8ウ	

邪		音兒 羨 3.45ウ	緤 4.5ウ	
章 日	音脂 砥 4.20オ	音旨 砥 4.20オ	音摯 鷙 4.3オ 音二 樴 3.44ウ	
見乙		音几 麛 4.5ウ	京媚 騩[8] 3.45オ	

	之	止	志	
幫甲		并止 {帊} 2.16ウ		
來	力之 耧 2.7ウ			
徹 澄	敕之 絺[9] 2.18オ	音峙 痔 4.9ウ	直吏 植 3.39ウ	
精 心 邪		則仕 滓[10] 2.16ウ 絲里 枲 2.18オ	息寺 思 4.1オ 先寺 笥 3.6ウ 音飼 食[11] 3.1ウ	
莊 初	音°緇°輜 3.32ウ °広韻「緇」に作る °広韻「輜」に作る	音笫 滓 3.48オ	側吏 載 3.23ウ 初吏 廁 1.14オ 3.40ウ	
日 羊	以之 飴 2.24ウ	弋止 已 3.19ウ	而志 餌 2.20ウ	
見乙		居擬 已 3.19ウ		

羣乙 曉甲	音其 騏 3.45ウ	音紀 己 1.20オ 1.22ウ 1.39オ	許志 喜[12] 1.14ウ	

	支合	紙合	寘合	
幫乙	音碑 襬 2.26オ			
澄			直睡 甀 3.8ウ	
精		子蘂 觜 4.12ウ		
初	楚危 榱[13] 3.38ウ			
昌 羊	弋箠 豨 3.47オ	之蘂 捶 4.26オ		
曉乙 影乙	音萎 痿 4.8オ	音毀 檓 4.12ウ		

	脂合	旨合	至合	
並乙		音圯 {帊} 2.16ウ		
來	力追 纍 3.10オ	力軌 壘 3.40オ 音壘 °蠝 4.6オ	○広韻「鸓」に作る	
澄	直追 椎 3.2ウ 音椎 錘[14] 3.31ウ			

心			息遂　祟 4.16ウ	
生	音襄　榱 3.38ウ		所類　帥 1.28オ	
章 常	職追　錐 3.1ウ 之誰　騅 3.45オ 音誰　脽 3.[illegible]ウ			
羊	音惟　遺 2.12オ			
見乙 溪乙 于	音龜　騩 3.45オ	音洧　痏 4.27ウ	音愧　騩 3.45オ 丘位　鬢 3.26オ	

(1)　髀（3.28ウ）〔広〕卑履切（幫旨開四）又傍禮切　→ 2.2.1.(3)

(2)　羆（2.9ウ、陶熊羆）〔広〕彼爲切（幫支合三）

(3)　疻（4.29ウ）〔広〕旨夷切（章脂開三）又章移切　→ 2.2.1.(3)

(4)　蔿（1.36オ、…其後杜伯之孫曰士蔿爲晉司空蔿子士穀…）〔広〕于僞切（于寘合三）

(5)　算（3.6オ〈又音〉、今謂之篩大者曰筵小者曰算）〔広〕博計切（幫霽開四）

(6)　貆（4.5ウ、貍一名貆…）〔広〕敷悲切（滂脂開三）

(7)　鮐（3.12ウ〈又音〉、鮐海魚也）〔広〕土來切（透咍開一）

(8)　騩（3.45オ、騂騩騅駮驪騮驢）〔広〕俱位切（見至合三）又居追、舉韋二切

(9)　絺（2.18オ）〔広〕丑飢切（徹脂開三）　→ 2.2.1.(3)

(10)　滓（2.16ウ、…紬之尤麤者曰絓繭滓所抽也）〔広〕阻史切（莊止開二）。反切上字「則」は「側」（莊母字）の誤りか。

(11)　食（3.1ウ、稟食縣官帶金銀）〔広〕羊吏切（羊志開四）又乘力切

(12)　喜（1.14ウ、勉力務之必有喜）〔広〕虛里切（曉止開三）。*憙〔広〕許記切（曉志開三）　cf. 段玉裁『説文解字段氏注』

(13)　榱（3.38ウ、榱卽椽也亦名爲桶）〔広〕所追切（生脂合二）

(14)　錘（3.31ウ）〔広〕直垂切（澄支合三）又馳僞切　→ 2.2.1.(3)

蟹　摂

			祭開	
來			力世　厲 4.20才	
精			音祭　穄 2.20才	
生			所例　殺 3.18ウ	
昌 書			充制　瘛 4.8才 式制　貰 2.17才 音世　貰 2.17才	

			祭合	
知			丁衛　畷 3.42才	
于			音衛　槥 4.17ウ	

臻　摂

	眞開臻	軫開	震開	質開櫛
幫甲	音賓　濱 4.37才			音畢　韠 2.27才
並甲		頻引　牝 3.47ウ 音牝　臏 3.29才		
明甲	莫賓　{轔} 3.33才			
乙	武巾　°瑉 3.18ウ	°広韻「珉」に作る		

來			里刃 隣 3.14ウ	音栗 廩 4.6ウ
知 澄			○広韻「庢」に作る	竹乙 °庢 1.18ウ 知栗 銍 3.3オ 持栗 秩 2.27ウ 音秩 秩 2.27ウ
精 心 邪			子燼 縉 2.14ウ 息刃 迅 4.6オ 音信 訊 4.26ウ 徐刃 蓋 4.16オ	
莊 生			○広韻「蟲」に作る	側乙 櫛[1] 3.16オ 音瑟 °虱 3.16オ
章 書 常 日 羊	 音身 肫 3.28オ 音辰 廩 4.6オ 以人 肫[2] 3.28オ	之忍 軫 3.2オ 3.34オ 音軫 診 4.25ウ 時忍 腎 3.28ウ 余忍 靭 3.36ウ 音引 釼 3.2ウ	 音刃 靭 2.30ウ 	 音逸 佚 1.16ウ
見乙 羣乙			居覲 靭[3] 3.36ウ 居欝 靭[4] 3.36ウ 其乙 姞 1.39ウ	

曉乙 影甲	音因　鞇 3.35ウ		○広韻「肸」に作る	許乙　°肸 2.10ウ

	眞合諄	軫合準	震合稕	質合術
來	音倫　綸 2.18ウ			
徹	丑倫　椿 3.43ウ			
精 心 邪	音荀　洵 2.4オ 音巡　紃 2.28オ 馴 4.22オ	息允　簨 2.13オ		子律　卒 3.46オ
章 船 常	順倫　純[5] 2.12ウ	之允　純 2.28オ 豎尹　盾[6] 3.29ウ		音述　秫 2.19ウ 常出　術[7] 4.31ウ
見甲 溪甲 羣甲 乙	丘倫　囷 3.38オ 俱倫　麇[8] 4.6ウ	渠隕　菌 4.14オ 4.16オ 求閔　窘 4.31オ		音橘　繘 3.10オ 葵橘　獝[9] 4.8ウ

(1)　櫛（3.16オ、櫛之大而麤所以理鬢者謂之疏言其齒稀踈也…）〔広〕阻瑟切（莊櫛開二）

(2)　胂（3.28オ、胂夾脊肉也）〔広〕失人切（書真開三）又丑人切。テキストには「胂音

身以人反」と見える。 身〔広〕失人切

(3) 靭 （3.36ウ、靭謂當胸者也）〔広〕余忍切（羊軫開四）又羊晉切

(4) 靳 （3.36ウ）〔広〕居焮切（見焮開三） → 2.2.1.(4)

(5) 純 （2.12ウ、綿繡縵紕離雲爵〈注〉紕…一作純…）〔広〕常倫切（常諄合三）又之尹切 → 2.1.1.(2)〈傍証例〉

(6) 盾 （3.29ウ）〔広〕食尹切（船準合三）又徒損切 → 2.1.1.(2)

(7) 術 （4.31ウ）〔広〕食聿切（船術合三） → 2.1.1.(2)

(8) 麋 （4.6ウ、麋即今之麝也）〔広〕居筠切（見真合三）

(9) 獷 （4.8ウ、…亦謂之狂獷妄動作也）〔広〕況必切（曉質開四）

山　　摂

	仙開	獮開	線開	薛開
幫甲	音編　篇 3.5オ			彼列　別[1] 4.23オ
並甲	婵連　篇 3.5オ			
	序連　便 2.17オ			
	頻綿　便 2.30オ			
明甲	音綿　櫋 3.33ウ		○広韻「列」に作る	亡列　滅 3.17オ
來				音列　洌 3.2オ
知				丁劣　畷 3.42オ
				音綴　醊 4.18ウ
娘		女展　輾[2] 2.14ウ		
精		卽淺　揃 3.17オ		
		音翦　揃 3.17オ		
心	音鮮　硯 2.14オ			私列　薛 1.33ウ
				先列　褻 3.22ウ

昌 常 日	時連 鉛 3.29ウ 而延 燃 2.14ウ 音然 燃 2.14ウ	音善 鱣 3.12ウ		音制 瘛 4.8オ
見甲 溪甲 疑甲 影乙	於虔 焉 2.8ウ		去戰 譴 4.16ウ 音譴 遣 4.17ウ	古薛 子 3.30ウ 魚列 鐵 3.36オ

	仙合	獮合	線合	薛合
來		力轉 臠 3.23オ		音劣 埒 3.41オ
澄	音傳 椽 3.38ウ			
心 邪	音還 囘 3.5ウ			音雪 帨 2.16ウ
章 常	市緣 篇 3.5オ 市專 篇 3.5オ 音遄 篇 3.5ウ	上兗 縳 1.36オ 時兗 {踳} 3.29オ 踳 3.29オ 市兗 {朻專} 3.8オ 音鄟 {朻專} 3.8オ		之劣 埶 3.26ウ

日		人兗 °渜[3] 2.15ウ	○広韻「渜」に作る	
羊	音緣 鳶 4.4オ		弋絹 緣 3.2ウ 3.31オ	音悅 說 1.34ウ
	°鷰 4.4オ	○広韻「鳶」に作る	悅絹 緣 2.27ウ	
見甲			吉掾 絹 2.14ウ	
羣乙	巨員 捲 3.27ウ			
	拳 3.27ウ			
	音權 拳 1.33オ			
曉甲				音威 搣[4] 3.17オ
于			于眷 院 3.37ウ	
			于倦 援 3.39ウ	

(1) 別 (4.23オ)〔広〕皮列切(並薛開三)又方別切 → 2.1.2.(2.1.)a.

(2) 輾 (2.14ウ、黄氏曰扞繒石也)〔広〕女箭切(娘線開三)又知演切

(3) 渜 (2.15ウ、靡潤輕渜也)〔広〕「渜」乃管切(泥緩合一)又奴亂切

(4) 搣 (3.17オ、揃搣謂鬄拔眉髮也蓋去其不齊整者)〔広〕亡列切(明薛開三)

效 摂

	宵	小	笑	
幫乙	彼驕 鑣 3.35ウ			
滂甲		敷沼 縹 2.14オ		
並甲			頻妙 剽[1] 4.29オ	
乙		平表 藨 2.30ウ		
來			力召 燎 3.2ウ	

			療 4.10ウ 鷂 4.3ウ	
澄	直遙 朝 4.33ウ	音 兆 羣 3.45ウ		
精 清 從	子消 鑣 3.2ウ 此遙 筱 4.28オ 千宵 °鍬 3.42オ	°広韻「鏦」に作る	七召 筱 4.28オ 音譙 鑣 3.2ウ	
昌 書 羊	式昭 搖[3] 3.26オ 餘招 陶 4.24オ 音遙 軺 3.32ウ 銚 3.3ウ	尺沼 勦 2.25ウ	昌繞 勦[2] 2.25ウ 式邵 少 3.20ウ 3.47オ 失照 少 4.23ウ 音燿 鷂 4.2オ	
見乙 羣甲 乙 影甲 乙	音驕 鷮 3.47オ 渠遙 翹 2.13ウ 渠驕 蟜 3.4オ 音喬 蟜 3.4オ 一遙 要 2.25ウ	於表 夭 1.33オ		

(1) 剽 (4.29オ)〔広〕符霄切 (並宵開四) 又匹妙切 → 2.1.2.(2.2.)b.

(2) 勦 (2.25ウ〈一音〉、…今人通以勦来麥爲之勦)〔広〕尺沼切 (昌小開三)

(3)　搖（3.26オ、簪一名笄簧即步搖也）〔広〕餘昭切（羊宵開四）．反切上字「式」は「弋」（羊母字）の誤りか。

假　　摂

	麻開	馬開	禡開	
精 從	音嗟　蒫 2.23オ		材夜　藉 3.37オ	
章 書 羊	 音奢　賒 2.17オ 弋奢　斜 3.11ウ		之夜　炙 3.23ウ (2例) 柘 1.26オ 傷夜　貰[1] 2.17オ	

(1)　貰（2.17オ）〔広〕時夜切（常禡開三）又舒制切　→ 2.1.2.(2.1.)e.

梗　　摂

	清開	靜開	勁開	昔開
幫甲 滂甲 並甲		卑盈　并 2.11オ 必郢　屏 3.40ウ		必亦　壁[1] 3.39オ 音壁　辟 1.17ウ 3.19オ 匹亦　僻[2] 3.40ウ 頻亦　擗 4.18オ 扶亦　辟 4.27オ
来	力呈　令 1.21ウ 3.23オ 4.33ウ			
知	音貞　楨 3.39ウ			

澄	直貞 醒 3.22ウ			
精 清 從 心 邪	音精 菁 2.23ウ 思營 騁 3.45オ 辭盈 °鍚 2.24ウ	°広韻、明本など「鍚」に作る	才性 °瀞 3.17オ	音積 鰿 3.13オ 七亦 刺 4.10ウ °広韻「淨」に作る
生		所領 省 2.1ウ		
船 書 常 羊	音成 盛 3.2ウ 3.7オ 4.17オ 4.33ウ 郕 1.21ウ		°広韻「奭」に作る	食亦 射 3.19オ 4.18オ 式亦 °暀 1.33ウ 音亦 液 1.31オ
見甲 曉甲		居郢 頸 3.27オ	休正 詗 4.30オ	

	庚開	梗開	映開	陌開
幫乙		音丙 邴 1.39オ 祊[3] 1.39オ	音柄 邴 1.39オ 祊[4] 1.39オ	
見乙 溪乙	音京 麠 4.6ウ 音荊 鵛 3.12ウ	音景 境 4.34オ 音警 鵛 3.12ウ		去逆 綌 2.18オ

疑乙				{絃} 2.18才 宜戟 逆 2.18ウ 音迭 逆 2.18ウ

(1) 壁 （3.39才）〔広〕北激切（幫錫開四） → 2.2.1.(5)

(2) 僻（3.40ウ、屏僻宴之名也）〔広〕普撃切（滂錫開四）又芳辟切

(3) 衿（1.39才、郎勝箱〈地名〉）〔広〕甫盲切（幫庚開二）。師古注には、「郎一作衿音柄又音丙」と見える。

(4) 衿（1.39才、cf.(3)）〔広〕cf.(3)

曾　摂

	蒸開	拯開	證開	職開
來	音淩 綾 2.15才			
微				丑力 飭 4.20才
精 從	疾陵 繒 2.17才			音卽 鯽 3.13才
生				音嗇 蔷 2.21ウ 音色 轖 3.36ウ
章 昌 船 書 羊	音繩 騬 3.46才		尺證 稱 3.31ウ 書烝、勝 1.33ウ 1.39才 以證 勝 3.13ウ	之弋 炙[1] 3.23ウ 音弋 掖 3.35ウ

(1)　炙（3.23ウ）〔広〕之石切（章昔開三）又之夜切　→ 2.2.2.(2)

深　摂

	侵	寑	沁	緝
幫乙		筆錦 稟 3.1ウ		
知	竹林 椹 3.2オ			竹立 縶 4.26オ
清	村林 鬵[1] 3.9ウ			
邪	音尋 鐔 3.30オ			音習 褶 2.26オ
生	山林 參 4.15オ			色入 鈒 3.30オ
章	之林 鍼 2.27ウ		章衽 枕 3.14オ	
	箴 2.27ウ 4.10ウ			
	斟 1.28ウ			
昌		尺審 瀋 3.48オ		
日	音壬 任 1.20ウ		人禁 衽 2.26ウ	
羊	音淫 鐔 3.30オ			
見乙				音急 汲 3.10オ
羣甲			○広韻「鴅」に作る	鉅立 °鷁 4.3オ
乙	其今 芩 4.11ウ			音及 °鷁 4.3オ
	音琴 芩 4.11ウ			
影乙		於錦 飲 4.36ウ		

(1) 鬱（3.9ウ）〔広〕昨淫切（従侵開四）又昨鹽、徐林二切 → 2.1.2.(2.2.)e

咸　摂

	塩	琰	豔	葉
幇乙		悲儉 貶 4.32ウ		
来	力詹 鎌 3.3オ 音廉 帾 3.15オ …… 斂 3.15ウ	良冉 斂 3.42ウ		
徹 澄 娘	敕淹 鉆[1] 3.4オ			直輒 牒 3.23オ 尼輒 躡 1.13オ 女輒 聶 1.34オ 鑷 3.4ウ
精 清 従	子廉 °鐮 3.43ウ 音潛 鬻 3.9ウ	°広韻「鐮」に作る 自琰 鄴 3.10ウ	七豔 鄴 3.10ウ	
昌 羊	昌贍 襜 2.26オ 昌占 幨 2.27オ 余廉 閻 1.36ウ		尺占 襜 2.26オ	
牽甲	巨廉 鈐 3.3オ 其沾 鉆 3.4オ	其閃 檢[2] 3.10ウ		

乙	巨淹 鉗 4.27オ			

(1) 鉆 (3.4オ, 鉆以鐵有所鑽取也)〔広〕巨淹切(羣塩開三) 又他協切

(2) 檢 (3.10ウ)〔広〕居奄切(見琰開三) → 2.1.2.(2.1.)ナ.

ⅢB 韻 類

通 攝

	東	董	送	屋
幫				方復 複 2.26オ 方六 幅 2.17ウ 輻 2.2オ 音福 復[1] 4.35オ 輻 3.33オ 音腹 鍑 3.1ウ
並				音伏 鞴 3.35ウ
來	音隆 癃 4.10オ			
知			竹仲 中 4.19ウ 陟仲 中 4.3オ	張六 竺 2.11オ 音竹 筑 3.20オ
從				音族 鏃[2] 3.2オ
羊				弋六 鸏 1.33オ
見				居六 鞠 4.26ウ

溪	去弓 芎 4.13ウ			
曉				許六 畜 3.46ウ
影				於六 篛 3.5オ

	鍾	腫	用	燭
並	符容 縫 2.27ウ			
澄	丈龍 重 1.29オ 2.24ウ 3.36オ 3.37オ	丈勇 襱 2.26ウ		
精	子容 瘲[3] 4.8オ		音縱 瘲 4.8オ	
	足容 縱 3.15オ			
	音蹤 樅 3.43ウ			
清	七容 從 3.18ウ			音促 趣 4.27オ
	七恭 樅 3.43ウ			
從			才用 從 4.21オ	
邪	徐龍 襱[4] 2.26ウ			
章		之隴 種 1.14ウ		之欲 屬 1.15ウ
書	傷容 舂 3.40ウ			
日	音茸 鞣 3.36ウ		而用 鞣 3.36ウ	
羊			音勇 踊 4.17ウ	
羣	音邛 ゜蛩	゜広韻「蛩」に作る		
曉				許玉 頊 2.10オ
影			於用 雍 1.39ウ	

(1) 復 (4.35才)〔広〕房六切(並屋開三)又扶富切 → 2.1.2.(1)

(2) 鏃 (3.2才、…一曰鍪者小釜類卽今所謂鍋也亦曰鏃鑛)〔広〕作木切(精屋開四) → 2.1.2.(2.1.)c.(傍証例)

(3) 瘲 (4.8才〈又音〉、瘛瘲小兒之疾卽今癇也)〔広〕子用切(精用合四)。『王二』(cf. 劉復等編『十韻彙編』)には「子用反又子容反」と見える。

(4) 襱 (2.26ウ、袴之兩股曰襱)〔広〕直隴切(澄腫合三)又盧紅、力董二切

止　摂

	微開	尾開	未開	
見		居豈 蟣 3.16才		
羣	音俟 柿[1] 2.24才			
曉			許既 塈 3.39才	
影			於既 衣 4.18才	

	微合	尾合	未合	
滂		敷尾 斐 1.37才		
		芳尾 菲 4.15ウ		
並			扶味 費 1.25ウ	
			音肥 腓 3.29才	
曉	許韋 揮 3.31才			

(1) 柿 (2.24才、梨柿柰桃待露霜)〔広〕方廢切(滂廢合三)

遇　摂

	魚	語	御	
来	力居 驢 3.45オ 音閭 臚 4.7オ		了遽 瘀[1] 4.9オ	
知 徹 澄	 音攄 樗 3.43ウ {摅} 3.43ウ 直於 篨 3.4ウ	丁呂 褚 2.26ウ 丑呂 褚 2.1オ 。広韻「攄」に作る 音佇 紵 2.18オ	陟慮 箸 3.8オ 丈慮 箸 3.25オ	
精	子閭 苴 2.23ウ			
崇 生	仕於 鉏 1.22ウ 所葅 疏 3.15ウ		音助 廬 4.6ウ	
昌 羊	 音與 予 2.19ウ	昌汝 處 4.27ウ 4.30ウ	 弋庶 豫 3.5ウ 譽 4.11ウ 音豫 譽 4.11ウ	
見 溪 暁	音居 琚 3.18ウ 巨於 蘧 3.4ウ 音渠 篨[2] 3.4ウ	居呂 筥 3.5オ 丘呂 去 3.6オ 邱呂 去 3.3ウ 3.17オ 起呂 去 4.10ウ 丘擧 麩 2.25オ 音巨 虡 2.13オ 炬 4.32ウ	丘據 麩 2.25オ	

疑		音禦 圄 4.24ウ		

	虞	麌	遇	
幫	方于 柎 3.2ウ			
	跗 2.25ウ			
	方符 鈇 3.1ウ			
	音膚 鈇 3.1ウ			
滂		芳羽・拊 4.18オ		
並		扶羽 腐 4.11ウ	音附 鮒 3.12ウ	
明	音無 毋 1.35オ	音舞 廡 3.38オ		
	蕪 2.23ウ	{庳無} 3.38ウ		
来		力羽 僂 1.24オ		
初	初俱 芻 3.48オ			
章		止矩 {緻} 3.24ウ		
		音主 麈 4.6ウ		
常	市朱 投 3.31ウ			
	殳 3.31ウ			
日			音孺 襦[3] 2.25ウ	
羊	弋朱 褕 2.26オ	音庾 窬 3.41オ		
	音踰 褕 2.26オ			
	音俞 羭 3.45ウ			

見 溪 韋 疑 于	音于 竽 3.20オ	音矩 楀 3.29ウ 丘羽 齟 2.25ウ 其羽 竽 2.30ウ 牛羽 麌 4.6ウ 王矩 萬 1.42オ 音禹 瑀 3.18ウ		

(1) 瘀（4.9オ、瘀積血之病也）〔広〕依倨七切（影御開三）

(2) 篠（3.4ウ〈又音〉、…織竹而麤文者篷篠也）〔広〕直魚七切（澄魚開三）

(3) 襦（2.25ウ、短衣曰襦、…）〔広〕人朱七切（日虞合三）

蟹　攝

			廢	
曉 影			許穢 喙 4.1オ 4.12ウ 音穢 蔥 2.27ウ	

臻　攝

	欣	隱	炀	迄
韋 疑 影	魚斤 齗 3.27オ 音垠 齗 3.27オ		其靳 近 3.29オ 巨靳 近 4.2ウ 於靳 隱 3.35ウ	

	文	吻	問	物
幫				音弗　韍 2.27オ
並	扶云　蕡 3.21ウ 　　賁 3.46ウ 　　枌 3.44オ 　　紛 1.23オ	房吻　牘 3.23ウ		
明	音文　雯 4.3ウ			音勿　芴 2.23ウ 4.15ウ
見			居運　据 3.43オ	居物　鴽 4.3オ 居勿　屈 1.32ウ
羣	音羣　裙 2.25ウ			
曉	許云　纁 2.16オ 　　薰 3.6オ 4.12オ 　　葷 2.21ウ 音勳　纁 2.16オ			
影		於粉　蘊 4.9ウ 紆粉　縕 2.18オ	於問　醞 3.24ウ	於物　鬱 2.14オ

山　　摂

	元開	阮開	願開	月開
見 溪	居言　劇 3.46オ	丘偃　幰[1] 3.35オ		

羣		渠偃 鍵 3.4才		
疑	音言 讞 3.9ウ	魚偃 讞 3.9ウ		
曉	音原 鞏 3.46才			
影	音訐 羯[2] 3.45ウ	音偃 鴳 4.1才		

	元合	阮合	願合	月合
幫			方萬 販 2.17才	
滂	孚袁 旛 3.34才		敷萬 嬎 4.5ウ	
並	音翻 反 4.26ウ 扶元 蕃 2.3才 音煩 蕃 3.46才 4.35ウ			音伐 {旣}3.30才
明			音萬 曼 1.18才 蔓 2.23ウ	勿發 韍 2.29才
見				音厥 蹶 4.9才 蹶 2.29才
疑	音元 芫 4.12ウ			
曉	許元 諼 1.37才			
影	於元 蒬 4.15才	於阮 菀 4.12才 音宛 {窮} 3.28才		
于				于月 絨 2.28才 音越 絨 2.28才

(1) 幰（3.35オ、棠蹂也在車兩旁以蹂距幰使不得以峙也）〔広〕虚偃切（曉阮開三）

(2) 羯（3.45ウ、殺之犗者爲羯謂劇之也）〔広〕居竭切（見月開三）

宕　摂

	陽開	養開	漾開	藥開
滂 明	敷方　妨 1.35オ 音亡　亲 3.39オ			
来	音涼　輬 3.32ウ		音諒　眼 4.9ウ	
知		竹丈　長 1.24ウ 2.6オ 3.1オ 4.32オ	音帳　脹 4.7オ 瘴 4.8オ	竹畧　著 2.27オ 2.30オ °広韻「略」に作る
澄	音長　腸 3.29オ			直略　著 1.15ウ
精 清 心 邪	資良　将 1.34オ 音襄　鑲 3.29ウ 音祥　洋 2.25オ	音象　祿 3.17オ	子亮　将 3.27ウ	千弱　碏 1.23オ
初	初羊　創 4.10オ	楚掌　上[1] 4.39オ		
章 書 日	音章　鄣 3.39ウ 麞 4.6ウ 人羊　攘 3.30オ 音穰　蘘 2.23ウ		之亮　障 3.40オ 式亮　向 1.20オ 2.10ウ 音餉　向 2.10ウ	音勺　斫 4.28オ 而灼　腳 3.24オ 如約　藥 3.14ウ

羊	音攘 鑲 3.29ウ 移章 禓 4.17ウ 音陽 禓 4.17ウ 音羊 陽 3.35ウ °鍚 3.35ウ	◦広韻「陽」に作る		音弱 朒 3.24才 弋若 𠟭 2.14才 爚 2.14才 音藥 櫟 1.38才
見 溪 羣 疑 影 于	音姜 韁 3.35ウ 起良 羌 1.36才 4.37才 於良 央 1.23ウ 于方 援[2] 3.39ウ	其兩 强 2.25才		居勺 屩 2.30ウ 音虐 瘧 4.9才

	陽合	養合	漾合	藥合
溪	音匡 筐 3.6才			

(1) 上（4.37才. 遼東濱西上平岡）〔広〕時掌切（常養開三）又時亮切

(2) 援（3.39ウ、…垣援也人所依阻以爲援衛也）〔広〕雨元切（于元合三）又王眷切

流　摂

	尤	有	宥	
幫 並	 音浮 鶏 4.3才		分副 鍑 3.1ウ 音富 鍑 3.1ウ 扶又 復 4.35才	

明	莫浮 鰲 3.1ウ 音牟 鰲 3.1ウ 3.3オ °鉾 3.3オ	°広韻「鰲」に作る		
來	音°畱 騮 3.45オ	°広韻「留」に作る	カ又 廇 3.39オ 力救 飂 1.20オ	
知 澄	張留 輈 3.32ウ 竹留 螲 1.18ウ 音儔 紬 2.16オ	知有 肘 3.27オ	丈救 冑 3.31ウ 簉 1.16ウ	
清 從	千由 鰍[1] 1.16ウ 音秋 萩 4.28オ 在由 酋 3.29ウ			
崇 生	所留 °鎪 3.30ウ	°広韻「鎪」に作る	仕救 驟 3.45ウ 騶[2] 3.45ウ	
常 日	音柔 揉 3.33オ 音蹂 揉 3.33オ	音受 綬 2.18ウ 如紂 揉[3] 3.33オ	上救 售 2.16ウ	
見 溪		丘柳 糗 2.25ウ	音救 °廄 3.40オ 音究 灸 4.10ウ	°広韻「廄」に作る

羣	巨牛 賕 4.30ウ	其久 麔 4.6才 音咎 麔 4.6才		
曉	音休 髹 3.36ウ		許又 畜 3.46才	
影	音優 麀 4.6ウ			

(1) 鰌（1.16ウ、史鰌〈人名〉）〔広〕自秋切（從尤開四） → 2.1.2.(2.2.)e.(傍証例)

(2) 騶（3.45ウ）〔広〕側鳩切（莊尤開二） → 2.1.2.(2.1.)d.

(3) 揉（3.33才〈一音〉、輻轂輨轄輮轙轈〈注〉…揉音蹂如紂反又音柔）〔広〕耳由切（日尤開三）又汝又切

咸 摂

	嚴	儼	釅	業
影				於業 鯷 3.12ウ

Ⅳ 韻 類

蟹 摂

	齊開	薺開	霽開	
幫			博計 箅 3.5才	
滂			匹詣 俾[1] 3.34ウ	
並	頻奚 椑 3.8才 步迷 毗[2] 3.28ウ 部迷 {鞞} 3.21才 鞞 3.21才	音陛 髀 3.28ウ		

	音鼙 椑 3.8才			
	膍 3.28ウ			
明	音迷 麛 4.7才			
端	的齊 鞮 2.27才	丁禮 抵 4.26ウ	音帝 綈[3] 2.15ウ	
	音低 羝 3.45ウ	都禮 羝[4] 3.45ウ		
透		音°躰 緹 2.16才	吐計 棣[5] 2.24ウ	
		○広韻「體」に作る	鬄[6] 3.17才	
定	徒奚 綈 2.15ウ		徒計 釱 4.27才	
	音題 緹 2.16才			
泥	音泥 韉 2.22ウ			
来	力兮 犂 3.42才		郎計 隸 3.14才	
	郎兮 驪 3.45才		音戾 綟 2.14才	
從		齊禮 薺 2.23才	材詣 齊 3.17ウ	
日	若犂 韉 2.22ウ			
見	工奚 枅 3.38ウ			
	笄 3.26才			
疑			音詣 倪[7] 3.34ウ	
匣	音奚 傒 1.17ウ			

(1) 俾（3.34ウ、蓋轑俾倪柅縛棠）〔広〕并弭切（幫紙開四）。* 睥〔広〕匹詣切（滂霽開四） cf. 朱駿成『説文通訓定声』

(2) 毗（3.28ウ）〔広〕房脂切（並脂開四） → 2.2.2.(3)

(3) 綈 (2.15ウ)〔広〕杜奚切(定斉開四) → 2.1.2.(2.1.)b.

(4) 羝 (3.45ウ〈又音〉、羝牂羊之牡也)〔広〕都奚切(端斉開四)

(5) 棣 (2.24ウ)〔広〕特計切(定霽開四) → 2.1.2.(2.2.)d.

(6) 鬄 (3.17オ、揃撱謂鬄拔眉髮也蓋去其不齊整者)〔広〕思積切(心昔開四)

(7) 倪 (3.34ウ、蓋轅俾倪柂縛棄)〔広〕五稽切(疑斉開四)。* 睨〔広〕五計切(疑霽開四) cf. 朱駿成『説文通訓定声』

山　攝

	先開	銑開	霰開	屑開
幫 明	音邊　碥 3.1ウ			音蔽　蹩 4.9ウ
端 透 定 泥		音典　簟 4.15ウ 他典　銛 3.2オ 乃典　撚 3.10ウ	音殿　澱 3.48オ	
清			千見　倩 1.41オ	千結　栔 2.11オ
見 溪 疑 曉 影	音堅　麉 4.7オ 口堅　汧 4.31ウ 音牽　开 4.31ウ 　　豜 4.6ウ 五賢　研 4.32オ 烏賢　燕 1.33ウ 音烟　咽 3.28オ		苦見　开 4.31ウ 倪甸　研 4.32オ 許見　韅 3.35ウ 一見　咽 3.28オ	音結　桔 4.15ウ 苦節　鍥 3.3オ 五結　齧 3.27オ

	先合	銑合	霰合	屑合
見	工玄 涓 1.35ウ 1.39オ		古縣 讀 4.30オ	古穴 玦 3.18ウ
			音睊 讀 4.30オ	
曉	火玄 鋗 3.3ウ			
匣	音玄 縣 2.13オ			

(1) 韅（3.35ウ、…在頸曰鞅在掖曰韅…）〔広〕呼典切（曉銑開四）

效　攝

	蕭	篠	嘯	
定	大堯 跳 4.18オ			
来	洛堯 料 3.21オ	力鳥 衧 2.26ウ		
	音遼 鷚 4.3ウ	音了 衧 2.26ウ		
	音聊 廖 1.18オ			
見		古鳥 皎 2.26ウ	工弔 徼 4.6オ	
			工釣 徼 4.25ウ	
影		烏了 葽 4.15オ		
		音杳 葽 4.15オ		

梗　攝

	青開	迥開	徑開	錫開

幫 並 明	步丁 鉼 3.9才		◦広韻「甓」に作る	音壁 ◦甓[1] 2.28才 莫歷 幎[2] 3.37才
定		大鼎 梃 4.28才 徒頂 町 3.41才	徒經 錠 3.2ウ	音敵 荻 2.23才
来	音苓 囹 4.24ウ 音零 軨 3.34才 冷 1.42ウ 伶 1.42ウ 笭 3.37才 音靈 櫺 4.12才			
心				先狄 緆 2.17才 先歷 析 1.18才
見 匣	胡經 鋞 3.3ウ 鈃 3.4才		胡定 脛 2.26ウ 户定 脛 3.29才	音激 墼 3.40才 刑狄 檄 4.30ウ

(1) 甓 (2.28才)〔広〕「甋」必益切(幫昔開四) → 2.2.1.(5)

(2) 幎 (3.37才、革韇車籍之交革也一曰重革之幎…)〔広〕莫結切(明屑開四)

咸　　摂

	添	忝	梴	帖

透定				他協 鞊 3.36ウ 徒頰 褶 2.26オ 音牒 褶 2.26オ
見匣				工篋 梜 3.8ウ 音頰 莢 4.13ウ 音協 俠 2.3ウ